

【令和元年度】第 14 回

後藤新平生誕祭



【オープニング】

認定こども園日高さくらの木（千葉洋子園長）の「さくら組」の園児 14 名が、自治三訣を唱和し、歌や踊り・手遊び歌を披露しました。また、女声合唱団・椿の会（本多千恵会長）が、後藤新平顕彰歌を斉唱し、開会セレモニーを盛り上げました。



【開会行事】



後藤新平顕彰会の山口了紀会長の挨拶の後、来賓を代表して、奥州市教育委員会の田面木教育長と、市議会の高橋政一議員が祝辞を述べました。また、拓殖大学からいただいた祝電も披露されました。

【記念講演】

「なぜ今、後藤新平か」 胆江日日新聞社 石川 浩一氏



平成 30 年 4 月から、「新平に会いに行く」を連載している胆江日日新聞社の石川浩一氏から、「なぜ今、後藤新平か」と題して講演をしていただきました。

取材等を通して、何度も訪れた「後藤新平旧宅」の話からスタート。木登りをしておしっこをし、母親に怒られたという木があるであろうこと。叱られて閉じ込められた「新平しばられの小屋」等、ここに足を踏み入れると、当時の歴史が詰まっており、味わい深いこと等を話されました。そして、連載を始めた動機として、①子ども達にわかりやすく水沢の偉人を紹介したかったこと。②地域経済に元気がないこの時に、豪快かつネア力のキャラで、日本が元気を持っていた時代の代表選手として新平さんを紹介したかった旨のお話をいただきました。約 70 人の参加者が盛んに拍手を送りました。

